

## 加藤周一現代思想研究センター活動報告（2022年度）

加國 尚志

半田 侑子

### （1）資料の整理・公開

#### 書簡・写真整理

22年度に書簡の整理を進めた。24年度中に書簡のデータベースを公開予定。写真整理は、25年度にデータベース作成、26年度中に、データベースを公開予定。

#### デジタルアーカイブ

23年3月に以下の7冊のノートを新たに公開する予定である。「日本文学史序説 NOTES」「日本文学史序説下 NOTES」「Japanese Literature (MODERN) Va」「Japanese Intellectual History (MODERN) Vb 近代思想史」「Buddhism in general」「Japanese Buddhism II 本朝高僧」「14 Days in INDIA and CEYLON 1959」。

### （2）クラウドファンディング・講演会・展示等の活動

#### クラウドファンディング

立命館大学が連携する講談社クラウドファンディングサイト「ブルーボックス・アウトリーチ」クラウドファンディング「誰でも、いつでも、どこからでも——加藤周一の「手稿ノート」をデジタルで読もう！」を

実施した。期間は22年4月27日から6月25日。のべ139名の方から、総額3,145,000円の御支援をいただいた。いただいた御芳志は「加藤周一『手稿ノート』」のデジタルアーカイブ構築費用に充当する。デジタルアーカイブにおける継続的資料公開を目指し23年度もクラウドファンディングを実施したい。

## 2022年度 R2030 推進のためのグラスルーツ実践支援制度採択

「加藤周一学の確立を目指して——教員・職員・院生・市民による協同研究——」という取り組みとして教員・職員・院生・市民が参画する共同研究を申請し採択された。立命館大学教員・職員・院生のみならず、学外の研究者・市民を含む19名が6つの分科会を構成し、加藤周一学の確立に向けて共同研究を進める。

## 加藤周一記念講演会

第6回加藤周一記念講演会(22年5月14日開催)は姜尚中氏をお招きした。演題は「剣には剣か、ペンは無力なままか——いま加藤周一に学ぶ平和の作法」。対面(キャンパスプラザ京都)とオンライン(Zoomウェビナー)のハイブリッドで開催し、対面は189名、オンラインは451名が参加。

23年度は10月7日に池辺晋一郎氏をお招きし、「音楽と政治(仮題)」と題して御講演いただく。

## 加藤周一文庫公開講演会『羊の歌』を読む(立命館大学図書館共催)

19年9月に開始、1章をおよそ2ヶ月のペースで進める。22年3月18日に33回目を迎え、『羊の歌』(正)の精読を終える。23年度からは『続羊の歌』を精読する。講師は鷲巣力顧問をはじめ、半田侑子、猪原透、西澤忠志、福井優が務めた。聴衆は対面・オンラインを合わせて常時60名が参加。参加者から感想として「精読による思わぬ発見がある」「今後も

続けてほしい」と好評を博す。

### 加藤周一研究会

劉争氏（関西国際大学講師）をお招きし「加藤周一『日本文学史序説』の「例外」とその両義性をめぐる問い」という演題で研究会を開催した。9月22日、対面（末川会館第二会議室）とオンライン（Zoom）のハイブリッド方式。

### 東京大学東アジア藝文書院との公開共同研究会

「日本の知識人、その宗教と周辺——鶴見俊輔・加藤周一・林達夫」と題して、22年12月5日、対面（東京大学駒場キャンパス101号館11号室（EAAセミナールーム））とオンライン（Zoom ウェビナー）のハイブリッド方式で開催。第一部は鷲巢力顧問による「林達夫と聖フランチェスコ、加藤周一とカソリック」（司会は半田侑子研究員）、第二部は伊達聖伸氏（東京大学教授）による「鶴見俊輔における宗教——はみだしの技法」（司会は片岡大右氏（批評家））。

### 図書館・加藤文庫内展示（立命館大学図書館との共同企画）

- (1) 加藤周一文庫所蔵のプラハ侵攻に関する資料やノートを「加藤周一がみたプラハの春からプラハ侵攻まで」（22年4月12日—5月31日）にて展示した。
- (2) 加藤周一文庫所蔵の署名入り献呈本を公開した2021年度「署名入り献呈本に見る加藤周一の交友関係」（フランス文学研究者篇）を踏まえ、22年度は「署名入り献呈本に見る加藤周一の交友関係」（作家篇）を展示（22年12月16日—23年1月31日）。

## 加藤周一『日本文学史序説』自主ゼミ

『日本文学史序説』を精読し、津田左右吉『文学に現はれたる我が国民思想の研究』との比較も行う。8月の夏季休暇を除き月に一度開催。鷺巣力顧問を講師に、半田侑子、福井優、落合優翼、狩野晃一が輪番で報告した。

### (3) 東京女子大学丸山眞男記念比較思想研究センターとの研究協定

第5回共同企画展示「知識人の自己形成——丸山眞男・加藤周一の場合」第2部を図書館内とWEBのハイブリッドで展示する。昨年度の「知識人の自己形成——丸山眞男・加藤周一の場合」第1部は自己形成の全体像を提示したが、第2部は「関東大震災」「2.26事件」「十五年戦争」「太平洋戦争開戦」「敗戦」「広島体験」に焦点をあて展示する。なお本共同企画展示第1部・第2部は鷺巣力顧問、山辺春彦氏（丸山センター特任講師）の共著『丸山眞男と加藤周一——知識人の自己形成』として筑摩書房より23年3月に刊行。

### (4) その他

#### オーラルヒストリー

平石知久氏（関西学院大学法学研究科研究員）と福井優（研究センタースタッフ）が思想家の言説が生成される基盤や構造、「場」に注目する観点から、編集者として知的言説の生成の「場」を作り立ち会った鷺巣力顧問に聞き取り調査を行った。22年9月より月に一度行い、全5回の予定。

#### 加藤周一論公開合評会

加藤周一に関心を持つ研究者による「加藤周一おしゃべりの会／羊の談話室（仮称）」が主催し、東京大学東アジア藝文書院（EAA）との共催で新たに刊行された加藤論の合評会を開催。報告者の一人として研究員半田が登壇。

- (1) 岩津航氏（金沢大学教授）『レトリックの戦場——加藤周一とフランス文学』（丸善出版、2021）公開合評会。22年1月26日、オンラインのみ。司会は伊達聖伸氏、報告は三浦信孝氏（中央大学名誉教授）、片岡大右氏、半田侑子。
- (2) 劉争氏『「例外」の思想——戦後知識人・加藤周一の射程』（現代図書、2021）公開合評会。22年7月4日、対面（東京大学駒場キャンパス101号館11号室（EAAセミナールーム））とオンライン（Zoomウェビナー）のハイブリッド方式。司会は伊達聖伸氏、報告は石井剛氏（東京大学教授）、片岡大右氏、半田侑子。

（かくに たかし 加藤周一現代思想研究センター長）  
（はんだ ゆうこ 加藤周一現代思想研究センター研究員）

